我が恩師ハーバート・C・ブラウン先生について

My Respected Teacher Prof. Herbert C. Brown

鈴木 章^{※1}
Akira SUZUKI

私はこれまで数多くの方から教を受けてきたが、日本でのこれらの恩師としては、化学という学問に対する姿勢を教えていただいた杉野目晴貞先生（元北京大学長）、日々の研究を通して指導していただいた松本毅先生である。その上で、私の人生で最高の恩師が、米国Purdue大学のハーバート・C・ブラウン先生（1979年ノーベル化学賞受賞）である。

私が北大で助手をしていた頃のある日、札幌の書店で化学の専門書を探していた際、棚に赤と黒のツートンカラーの少し風変わりな本があった。これがブラウン先生の書かれた『ハイドロボレーション』であった。早速購入して帰って読み始めたところ面白く、その晩は徹夜して読んだことを覚えている。その後、ブラウン先生がいるPurdue大学に留学し、ハイドロボレーションの研究を行った。1965年帰国後、ハイドロボレーション反応で作られる有機ホウ素化合物の化学に興味を持ち、この化合物を用いる有機合成の研究を進めた。その研究の成果が2010年ノーベル化学賞を受賞する基になったのである。

私が留学した当時、ブラウン先生は51歳で研究に対してとてもアクティブで、体格も大きく、非常にエネルギーギッシュであった。研究室の学生達には、厳しい指導者として恐れられてもいた。当時ブラウン先生によく言われたことは、「教科書に載るような独創的な仕事をしなさい」ということだった。この言葉を繰り返し何度も言われたことを記憶しており、私の座右の銘で

1995年6月ブラウン先生のご自宅にて

もある。2010年のノーベル賞の受賞で少しは先生達のご恩に報いることができたのではと考えている。ブラウン先生は2004年に92才で亡くなられたが、ご存命であれば、きっと喜んで下さったことであろうと思う。

2年間の留学を終えて北大に戻ってから頻繁に、ブラウン先生を訪ねた。2011年には先生の名を冠したH. C. Brown Awardをアメリカ化学会からいただき、2012年には、夫婦でブラウン先生の生誕100周年をお祝いする会にも出席して昔のことを懐かしく思い出したところである。

学問の方向性に関する指導や日々の実験上の指導を通じ、研究とはこういうことだ、人生とはこういうものだという大きな影響を与える存在、それが恩師ではなかろうか。杉野目先生や松本先生と同様に、ブラウン先生にもそのような学問や人生について色々とお教えいただいた。心から感謝申し上げる。

2012年12月3日受付

※1 北海道大学